

令和7年度 学校評価(自己評価)計画書

小松特別支援学校

重点目標 番号	具体的取組	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備 考
1 授業実践力の 向上	【教科指導力の向上】 各教科等を合わせた指導において、教科の視点やねらいを踏まえて授業計画、実践を進め、教科指導力の向上を目指す。	教務課	各教科等を合わせた指導では各教科で育成する資質・能力を明確にして各教科の目標を達成することとなっている。しかし、計画段階で特定の教科に偏りがあったり、実際の指導で教科の視点を十分に意識できていなかったりする等の課題がある。各教科等合わせた指導においても各教科のねらいを意識して指導に当たっていく必要がある。	【努力指標】 各教科等を合わせた指導（日常生活の指導、生活単元学習、遊びの指導、作業学習）において、各教科のねらいを意識した場面を設定したり発問したりしている。	各教科等を合わせた指導において、各教科等を合わせた指導に含まれる教科のねらいを意識した場面を設定したり発問したりすることができた教員の割合が A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：教員 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価
	【授業改善の推進】 教科別の指導において、児童生徒が教科の見方・考え方を働かせるために行う指導や手立てを焦点化・具体化して授業改善に取り組む。	研修 研究課	深い学びを実現するための鍵となるのが教科の見方・考え方である。昨年度の学校研究で教科の見方・考え方を意識した授業づくりが教師に浸透してきており、今後は児童生徒が教科の見方・考え方を働かせるために必要なことは何かを考え、授業改善を行うことが必要である。	【努力指標】 児童生徒が教科の見方・考え方を働かせるために必要な指導や手立てを考えて授業改善に取り組んでいる。	児童生徒が教科の見方・考え方を働かせるために必要な指導や手立てを考えた教員の割合が A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：教員 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価
2 安全・安心な 学校運営	【災害時の保健体制の整備・保健指導の推進】 非常災害の発生時の保健体制の整備に向け、災害時の口腔ケアに向けて取り組みを進める。	保健 体育課	災害時の児童生徒の健康管理について令和6年度の学校保健委員会で口腔ケアが大切であると学校歯科医より助言があり、災害時用の歯ブラシと液体歯みがきを購入した。液体歯みがきは通常の歯みがきと使用方法が違うため災害時に液体歯みがきを使って口腔ケアができるように、液体歯みがきの使い方を練習し、災害時により良い健康管理ができるよう支援する必要がある。また、児童生徒の幅広い実態に応じた口腔ケアの方法を探る必要がある。	【満足度指標】（保護者） 災害時の児童生徒の保健体制の整備に向けての取り組みに、満足している。	保健だよりや連絡帳などにより、災害時の口腔ケア等の健康管理の取り組みに、満足していると答えた保護者の割合が A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：保護者、教員 4月 児童生徒の歯みがき状況把握 6月 歯磨き月間に合わせ、災害時口腔ケアグッズの紹介 動画をを使って使い方を説明 7月～2月 月に数回災害時口腔ケアグッズの使用日を設定 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価
	【災害時体制の整備】 危機管理マニュアルを基に、教員が非常災害時の自分の役割を理解しながら行動できるようにする。防災士や職員からの助言や意見を参考に危機管理マニュアルの内容を随時アップデートすると共に、職員への周知を徹底していく。	学校 安全課	危機管理体制を大幅に見直して3年目となり、実践的な危機管理体制の整備が進んでいる。能登半島地震以降も地震が定期的に発生している状況であるため、有事の際に全職員が危機管理マニュアルを基に適切な措置や行動をとれるようになるため、危機管理マニュアルの周知を確実にする必要がある。	【成果指標】 液体歯磨きなど災害時の口腔ケアグッズの使い方を理解し、個別に応じた支援をしている。	災害時の口腔ケアに向けて、液体歯磨きなどの口腔ケアグッズの使い方を理解し支援している教員の割合が A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：教員 4月 危機管理マニュアルの共通理解 訓練や災害時の担当割りの確認や情報収集、共有、全職員への指示 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価
	【指導力・専門性の向上】 進路情報の提供や進路に関する研修会、行事等とおして、教員が進路支援の手引き「明日を考える」の内容について理解を深める。	進路 支援課	高等部卒業後の進路情報について、進路の手引きを配布したり事業所説明会を開催したりしているが、より多くの情報提供をしていく必要がある。	【努力指標】 教員が進路支援の手引き「明日を考える」の内容について理解が深まる。	参加した研修会や行事等により、教員が進路支援の手引き「明日を考える」の内容について理解が深まったと感じた教員の割合は A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：教員 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価
3 教育支援体制 の充実と指導 力・専門性の 向上	【地域連携の推進】 医療等外部専門家との連携後に、専門家の助言や指導方法について部会や学年会で共通理解を図り、指導に活かす。	相談 支援課	医療等外部専門家によるPT、OT、STのアドバイスを受けた教員は、児童生徒の捉え方や支援について知り、指導に活かすことができている。学期ごとに記録を回覧し指導力向上を図っているが、部会や学年会等で十分に共通理解を図れているとはまだ言えない。	【努力指標】 連携後に専門家の助言を部会や学年会等で共通理解を図ることができている。	連携内容を部会や学年会等で確認し、共通理解を図ることができた教員の割合が、 A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：教員 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価 随時 部会等での共通理解 随時 連携後に記録の回覧
	【業務内容の見直しによる業務の改善】 前例踏襲で業務を遂行するのではなく効率化・平準化の視点から、業務内容や方法の見直しを推進する。	教頭	業務のICT活用も進み、業務の効率化や見直しを行っているが、更に業務効率化の意識をもち、部または課の業務内容や方法を見直し、効率化や平準化を推進する必要がある。	【努力指標】 業務内容や方法、担当人数等の効率化・平準化を意識した見直しを積極的に行う。	業務の効率化の意識をもち、業務内容や方法を見直ししたり、改善したりした教員の割合が A 80％以上 B 70％以上80％未満 C 60％以上70％未満 D 60％未満	B以上で達成	評価者：教員 9月 アンケート 10月 分析、中間評価 1月 アンケート 2月 分析、最終評価